

作業療法新聞

2015年
8月吉日発行
日吉病院 OT

教育プログラムで

7月21日の教育プログラムで、横浜市総合保健センターに行きました。まず日吉から、新横浜まで電車で行き、そこから専用のバスに乗って行きました。センターはとても広く綺麗で、びっくりしました。就労支援事業所で、実際に働く準備をされている方と会うことが出来ました。その後生活支援センターでは、俳句を楽しんでいる方や、コーヒーを楽しんでいる方がいて、とてもいい雰囲気でした。最後に宿泊施設かもめを見学しました。個室は、広々としていて、ベッドではなく、布団で、リラックス出来るような部屋でした。自由な雰囲気、退院間近の方は、利用してはいかがでしょうか？ 忙しい時間の中でしたが、見学に加え質問時間もあり、とても有意義な一日でした。



横浜市総合支援センター内の個室。病院より広々。清潔感があり、ちょっと泊ってみたい気分になっちゃいました。(^^)

巻き絵の紫陽花

(次回の作品は、花火)



製作期間2ヶ月。貼り絵グループ全員で、製作した色鮮やかな力作！！各メンバーの工夫。メンバーで協力し合う事。完成時の嬉しさ。素晴らしく美しい一言です。

心に残る街

北アルプスなどの山々に囲まれた旧城下町、長野県の松本市。街の中心には美しい水が流れる女鳥羽川があり緑豊かです。川の周りには古風な情緒を残す通りがあり、飲食店や土地の物が並んでいます。昔ながらの民家を改装したお店、街中を流れる湧き水や一点物の器など、散策していると好きな景色に出会えます。陶芸や木工、草木染めなどの物作りをしている人が多く、クラフトフェアなどのイベントが催され、お店やギャラリーが多くあります。古い物だけでなく新しい物と混在しているところも魅力のひとつです。

車を少し走らせて安曇野に行けば、北アルプスを背景に広い田園風景がひろがっていますし、景勝地「上高地」や「乗鞍岳」にいくのも便利です。
(アクセス JR本線「特急あずさ」で新宿駅より2時間半)

お勧めの映画

ヘドウィック&アングリーインチ

共産主義体制化の東ドイツで産まれたヘドウィック。アメリカ軍人ルーサーに出会い結婚。アメリカに渡る為、性別適合手術を受けさせられるも、「怒りのインチ (アングリーインチ)」が残され、最初の結婚記念日に夫ルーサーは、ヘドウィックの元を去ってしまう。それは、ベルリンの壁崩壊の日だった。絶望に暮れるヘドウィックは、昔抱いたロック歌手になる夢を思い起こし、アルバイトをしながら身をつないでいたある日、ロックスターに憧れる十七歳の少年トミーと出会うが・・・
さて、ヘドウィックの人生如何に?? お尻のタトゥーがどう変わっていくのか?! に注目!!

21グラム

一つの心臓をめくり、交差するはずのなかった3人の男女の人間ドラマが描かれる。時間軸が細かく交差する構成が大変魅力的。2003年製作のアメリ映画アレハンドロ・ゴンサレス・イニャリトゥ監督作品。主人公が3人という設定が特長。カメラアングルもちょっと他の映画作品にはない、独特な世界観があり、嫌でも引き込まれてしまう作品。

編集後記

今回で新聞部を卒業して退院することとなりました。ここで、皆さんとひとつの物を作りあげることができたことは、今後社会生活を送っていくなかで、家族や友人たちと過ごす際には、きっと大きな経験になっていくと思います。

これから新聞部の皆様がどんな記事を書いていくのかとても楽しみにしています。また、一緒に新聞を作ってくださいる方、募集します。